



緑化でリラックスとストレス解消

多くの人は新緑をみると綺麗と感じる事でしょう。これは主観的なものではなく、緑を見ると脳からα波があらわれる為と科学的にも立証されています。

白い円柱を見た時より植木鉢を見たときの方がリラックス感が増し、植木鉢よりもゼラニウムを見るとさらに向上するそうです。また葉だけではなく花をつけたゼラニウムの方がよりリラックス感が増しているという検証結果があります。

また、樹林地とただの平地に被験者を置いて騒音を聞かせた場合、緑に囲まれているところにいる被験者の方が、騒音を実際の値より小さく感じているという検証データもあります。

逆に緑が少なければイライラやストレス感が増してしまうと言うこともになりますので、東京を初めとする大都市圏では非常に緑が少ないのだ、都会人のイライラは緑が少ないからではないかという事も言えるのではないかと思います。とある心理学者が

学生に植物を眺めさせたところ、陽気さが高まり怒りと恐怖感が減少した結果を得られたことを実証しています。

さらにストレスを増幅させる映像を被験者に見せたあと緑の多い自然的環境へ移動させると、血圧筋肉の緩和など生理手学的な兆候によつて著しく回復されたとしています。

日常的なストレスから回復するためには、視界に植物を短期間でも多く露出させることが効果的だと唱えています。

緑化を見るだけで癒やされて、イライラやストレスが軽減される。コンクリートジャングルの町並みは近代化に伴い致し方ないかも知れませんが、屋上緑化や壁面緑化などを多用することで、環境へのエコ活動以外にも一役買える「緑化」を是非とも、推進奨励しますます増やしていただければと思います。



スタッフ紹介

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

今年の4月に入社しました、中山駿一と申します。

私は、岡山生まれ岡山育ちで、東岡山工業高校を卒業後、岡山理科大学の建築学科に進学しました。大学卒業後は、常勤講師として岡山県内の工業高校の先生を3年半ぐらいて、今年の3月までは岡山市内の工場で製造職をしていましたが津山地域に引っ越し、縁あつて弊社に入社することができました。

弊社では、岡山工場の技術部に所属しています。現在は製品検査や先輩社員の手伝いなどを行つて、勉強をしています。弊社では職場の雰囲気もよく、先輩方が優しく教えていただいているので毎日楽しく仕事ができます。

話がかわりますが、私の趣味についてです。趣味は柔道と筋トレです。私は、幼いころから柔道をしていました。小学校から大学までは柔道部や地域の道場に通い、社会人になってからは柔道部の顧問として生徒と一緒に部活に励んでいます。現在は地域の道場や大学などに練習に行かせていただいたりして、趣味程度で柔道を楽しんでいます。最近では練習ができる機会が減ってきているので、体がなまらないうちに地域



のスポーツジムに行つて、筋トレをしています。また、車やバイクなども好きです。車は、現在トヨタのハイエースでエコカー生活を行つておりまして、将来はランクルや米トヨタのセコイアなどに乗りたいと思っています。バイクは、一年ほど前まで、ヤマハのドラッグスター400というアメリカンバイクに乗っておりましたが、大型二輪免許取得後に手放しました。しかし、お盆休み期間に岡山のハーレーが無料で試乗車を貸し出してくれたので、夢であるハーレー(Harley Davidson)を二週間乗り回すことができました。

これからは、講師で培ったコミュニケーション能力や技術、柔道で培った精神力や体力を活かし、弊社に貢献していきたいです。

どうぞよろしくお願いいたします。

DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

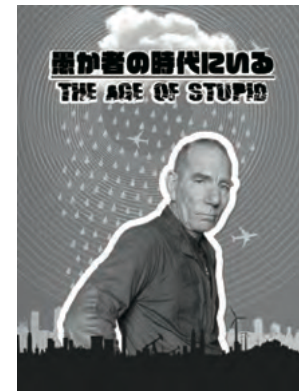


次号も
お楽しみに

URL : <https://dainichikasei.cp.jp>

Vol.66

映画で学ぶ 環境問題



愚か者の時代にいる
The Age of Stupid

監督：フラニー・アームストロング
製作国：英国
上映：92分
公開：2009年

本作品はドキュメンタリー映画ではなく有るナビゲーターが映像を元に解説していくスタイルでは無く、2055年の時代から現代(制作当時の2008年あたり)の映像アーカイブを見て振り返るという斬新な表現手法です。

そのアーカイブをみている老人が居るのはノルウェーの北部800キロという北極に近いところに立てられた巨大なタワー「世界の記録保存館」。その中には世界中の美術館からの美術品が保存され、その下の階にはホルマリン浸けになった動物が、そして全ての映画、書物、科学論文などが

巨大なサーバーに保管されています。つまり2055年には地球そのものが荒廃し人類は壊滅状態になっているという設定です。

2008年から15年にむけて何もしてこなかったからこうなっているとなれば、一人の老人がモニターに向かいアーカイブを見て過去の状況、つまり現代の愚かさを振り返るという展開です。

それらのアーカイブ映像はフィクションではなく本物の映像が使用されており、過去の愚かさを振り返っているといえるかと思えます。作品の制作年が2008年あたりなので2024年からみると異なっているかもしれませんが、夏

の最高気温は年々上昇する一方。昨年は最高記録を計測しました。しかし今回はそれを上回っています。都市部では35度はあたりまえ、40度を超えるところもチラホラあります。本原稿執筆時の9月中頃でさえ35度を計測しています。流石に夜になると涼しくなってきたと思うので気温を確認したら31度と、体感が麻痺しているようです。

作中アーカイブに出てくる映像で興味深いのが、風力発電施設建設を推奨し火力発電が出す二酸化炭素を抑止しようとする男性と反対派の住民。反対派は温暖化を心配しておりとても興味深い試みだと思う。しかし自分自身の住んでいるところに設置されるとなると話は別。高いマストで視界が遮られる、低レベル騒音の懸念、ドラッグレース場の近隣な事から、マストが見えると運転に集中出来ないなど、サステイナブルな取り組みよりも、目先の自身の利益を優先してしまうということですね。結果としてこのプラント計画は実現しませんでした。

地球温暖化というものは億というながい年月から見ると誤差の範囲で、しかも平均気温は低下している方だとか、このまま進めば地球は崩壊しかねないというもののまで様々な学者から色々な見解があります。それが正しいとは確定するのは困難ですが、現実として環境に良くないことが多いというのは間違いないでしょう。

アメリカ国民一人が消費するエネルギーはヨーロッパの2倍、中国人の9倍、インド人の15倍、そして全

人類がヨーロッパや日本並みに消費すると地球あと二つ分の資源が必要に、アメリカ並みならあと地球4つ分の資源が必要になり、さらに何十年か先には人口も90億人を超えるといわれ、その時に同じ様に消費すると地球6個分の資源が必要になるとしています。

環境破壊や温暖化などで資源の枯渇が早まるということは人類の存続も危ぶまれるということ、このドキュメンタリーの冒頭の箇所に通じるところです。

当時何もなかったからこのようにな事になってしまった。愚か者の時代に居る。まさにその通りかもしれません。

では個人では何が出来るのでしょうか？アメリカ人は靴をすぐに買い換え捨てていく。それを手直しして売る事で生活の糧にしている子ども達も描かれています。

飽きた、少し汚れたなどで買い換えてしまう靴を、履き潰れるまでとことん使うと微少ではあるが全人類規模で見ると、そこそこの成果も期待出来る。それらの積み重ねが50年後の地球の運命を支えるといっても過言ではないかとも思います。

子供・孫の世代にお金を残すのではなく、地球そのものを残していかなければならないと考えさせられる作品です。